

英語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

岩見沢市立東光中学校 主幹教諭 畠山 泰之

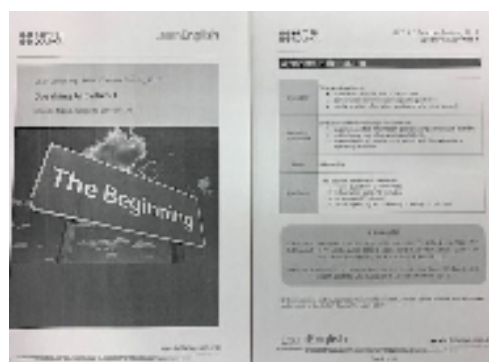
1. はじめに

平成29年4月、9月の各1週間で独立行政法人教職員支援機構において「英語教育推進リーダー中央研修」に参加し、学ぶ機会をいただいた。本研修受講後の役割は中央研修で学んだ指導方法を各地域に戻って伝達する「カスケード研修」の講師を務めることであった。4月の研修では4技能を中心に指導方法についての講座を受講した。そして9月の研修では、次年度からの伝達講習に向けて、講師役のトレーニングを積むという内容であった。

2週間の研修では British Council のイギリス人講師による英語での講座と全国から集まった英語教員と実践交流や指導上の悩み等を連日話し合うことができ貴重な時間とすることができた。



中央研修の参加者



研修テキスト

2. 中央研修に参加して

(1) 研修Ⅰ期（4月）

外国語教育において、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、生徒が思考・判断し、外国語で表現したり伝え合うことができるようになることが求められている。そのため私たち英語教員も英語で授業を行うことが基本である。日常の授業の中で生徒が理解できる英語を使うということは大きな課題の一つである。本研修会では Classroom English の講座が設定されており、効果的な Classroom English の使用方法を学ぶことができた。また speaking, listening, writing, reading においても、生徒が学習の主体者(student-centered)となる効果的な指導方法や指導計画を学び、たいへん有意義な1週間となった。

(2) 研修Ⅱ期（9月）

研修Ⅰ期で学んだ指導方法を、5月以降は学校現場に戻って実践する日々であった。British Council の講師のような自分の思い描いた実践とはならず、苦勞する日々が続いた。この段階では「妥協しない、徹底して行う、継続する」ということを心がけていた。

そして9月の研修Ⅱ期では、講師役と受講者役に分かれて伝達講習に備える1週間となった。この研修Ⅱ期においても、学校での授業実践同様になかなか上手く講師役を行うことができず、不安な日々を過ごしていた。

私の伝達講習は次年度（平成30年度）からということもあり、中央研修に参加した多くの仲間が先に講師となって各地で研修を行っていたので、様々な情報を共有することができ、改めて共に受講した仲間感謝であった。

（3）伝達講習を終えて

平成30年より2年間、空知管内において「グローバル化に対応した英語教育指導力向上研修」の講師として、管内の英語教員に中央研修の内容を伝える機会をいただいた。研修は英語で行うことを基本とし、3日間の研修を参加者にとって有意義なものとなるよう、事前準備を入念に行って研修会を迎えた。文法事項の配列を基本に編集されている教科書を用いて行われる日常の授業において、コミュニケーション活動を基本とした講習内容をどのように取り入れていけばよいのかという悩みを2年間で多くの受講者からいただいた。この経験を踏まえ、教科書を用いながらどのようにして効果的にコミュニケーションを図る資質・能力を高めるかということが課題として明らかになった。

3. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

平成29年度の中央研修の受講から、平成30年、令和元年と伝達講習を行う中で、私の中ではまだまだ自分の授業が生徒にとって「主体的・対話的で深い学び」を実現する場となっていないと感じていた。

そのような中で令和元年度、北海道教育委員会より「ほっかいどう学力向上推進事業（英語力の向上支援）推進校担当教員」という役割を頂いた。空知教育局指導主事、管内2名のハンドブック推進委員の先生方と授業公開にむけて指導案検討を重ねたり、パフォーマンステストのハンドブック作成を通して、効果的な授業展開を考える貴重な時間とすることができた。

そして文部科学省より山田誠志調査官を講師にお迎えし、授業公開を行った。「書く」活動を中心に、生徒が「ALTに歴史上のお勧めの人物や文化を伝える」という場面を設定した。授業の中で生徒が真剣に考え、自分の思いを伝えるための英語表現を考えたり、教え合うなど真剣に取り組む姿が見られた。



グループで発表原稿を考え、教え合う生徒（左）

笑顔で発表する生徒（右）

4. 今後にむけて

様々な機会をいただいたことに感謝するとともに、日々の授業改善を進めることが私の使命である。生徒が失敗を恐れず、楽しそうに自分の思いや考えを英語で伝えようと前向きに挑戦している姿で溢れる授業を目指して今後も努力していきたい。